

「信仰によって救われました」

2019年02月08日

エフェソの信徒への手紙2章7節～10節 こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです。事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものあり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

「著者」は、あなたがたはキリストを知る以前は、欲望の赴くままに生活し、心は死んでいた。しかし、神は御子イエス・キリストの十字架の死によって、罪を赦し、復活によって神の命を与え、命へと招き入れられた。そして、「あなたがたの救われたのは恵みによるのです」と、救いは神の恵みによると力説している。

「神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです」と続け、「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです」と、神がお示しになった慈しみは、神の恵みを信じる信仰によって救われると繰り返している。神から与えられる救い、「義」は、行いによるのではなく、信仰によると説いたのがパウロの福音の核心であった。パウロはガラテヤ書2章16節で、「人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです」と、また、ローマ書3章22節では、「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません」と書いている。律法の義は人による義である。人は出来ることを驕り、出来ないことに卑下し、出来る出来ないで競い、序列化し、心が休まらない。出来ることを誇りたくなるのが、人の常である。神は、ただ、イエス・キリストを信じる者を「あるがまま」受け入れ、義とし、救いを与えてくださる。この福音は、人間を真に自由へと解放する。こんな嬉しいことがあるだろうか。私は、自分や他人からの評価ではなく、神からの「生の絶対的肯定」の宣言を聞き、生きることに勇気を与えられ、この福音を語り続けてきた。

「信仰義認」の福音を生きる者は、自分を誇らず、パウロが言うように、「誇る者は主を誇れ（Iコリント1:31）」と、キリストを主と告白して生きる者となる。イエス・キリストを信じる者を「あるがまま」受け入れ、義とし、救いを与えてくださると信じることは、現状を甘受して、現状に留まることではない。義とされた者は神に造られたことを知っているので、神の御心に沿う新しい生き方へと導き出される。「著者」は、それを「神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」と語っている。信仰義認の信仰は、善い業を追い求める者へと生まれ変わらせ、聖霊が善い業に励むように導いてくださるのである。